

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組みについて

| 項目 | 行動計画の目標・評価方法 | 達成状況・評価結果 | 具体的取組に関する成果や課題 |
|----|--|--|--|
| 学 | <p>中長期的な重点目標の 1 「教科活動を充実させ、学力向上を図ります」 1 将来社会でリーダーシップを発揮出来る様高い理想を持ち、その理想を実現するため確かな学力を身に付けさせる。(1年) 【取り組み状況の指標】 ・生徒が興味を持ち、かつ緊張感を持った授業を日々展開できるように、担当する全ての教員が心がける。 【達成状況の指標】 ・各模擬試験において、全ての教科で過去5年間の成績を上まわることを目標とする。</p> | <p>・9月模試では若干の落ち込みが見られたがその後、11月模試では持ち直すことができた。過去5年間の成績をすべて上回ることはできなかったがまずまずの成果といえる。</p> | <p>・担任の先生を中心として、「緊張感をもった授業」とは何かということを理解してもらうまで若干の時間がかかったが、最初の初期設定がしっかりできたので、いいリズムで学年が運営できていると思う。この調子で継続してければあらゆる面で成果はさらに上がると思われる。</p> |
| 習 | <p>(2年) 【取り組み状況の指標】 ・学力上位層を伸ばすと共に、下位層に対して補習・再試・学習会を実施し学力の底上げを図る。 ・長期休業中の宿題未提出者に対して居残り学習を実施し宿題を完全に提出させる様にする。 ・学習する習慣を身に付けるために、今年度も定期考査前に学習計画を立てさせ、学習時間を記録させる。 ・定期考査終了日に「振り返りシート」を記入させテスト勉強の取り組みを反省させる。 【達成状況の指標】 ・第3回進研模試の国・英・数の平均偏差値70以上の生徒が20人以上になるようにする。 ・同偏差値50未満の生徒が30人未満、同偏差値40未満の生徒が0になるようにする。</p> | <p>・相変わらず学力上位層は薄が模試の平均偏差値を見る限り今のところ何とか例年並みの学力を維持している。 ・夏休み明けの宿題の提出状況はよくなかった。相変わらず同じメンバーが居残り学習の対象者になった。 ・学習計画を立てさせる指導は途中で打ち切った。ただ単に計画表を配布するだけにした。ただ学習時間を記録させる指導は継続させた。 ・第3回の模試の結果が出ていないので第2回の結果で判断する。偏差値70以上のものは13人で目標を下回った。偏差値40未満の生徒も5人で目標を下回った。</p> | <p>・個別指導やテストごとに再試・補習・学習会を粘り強く行ってきか、全体のバランスを考える必要がある。 ・期日を守らず、居残り学習に合わせて宿題を提出するものが増加した。これ以上居残り学習をする意味がないと判断し、冬休み明けから居残り学習を打ち切ったが、宿題の提出状況が悪化しなかった。少なくとも2学年後半以降実施する意味は無い様に思う。 ・具体的な学習計画をたてることはとても大切なことだが、少なからず生徒にとってはそれが負担になっていた。ともすれば計画を立てることが目的化してしまう恐れがあるので、低学年の内に徹底させることが大事だと思う。 ・目的意識を持たせ、粘り強く指導していくしかない。上位層に対しては個別指導も必要かもしれない。</p> |
| 導 | <p>2 生徒一人ひとりが自分の進路希望を明確にし、希望を実現するために、目標に向かって自ら努力できる力を身に付けさせます。(3年) 【取り組み状況の指標】 ・「志望理由書」を完成させるための指導を行います。 ・生徒が目標に向けた努力を継続できるよう、きめ細かい面談や教科指導を行います。 【達成状況の指標】 ・「志望理由書」に記載した第一志望大学に5割以上合格できることを目指します。</p> | <p>・担任の添削指導のもと、97.2%の生徒が「第一志望届」を提出した。 ・4月、6月、10月、11月、12月に統一して面談を実施、それ以外にも必要に応じて進路相談を行った。教科指導も、課外や特編で目的に応じた複数の講座を開講するなどしたが、1・2年次に比べると模試の成績は低調であった。</p> | <p>・志望理由書の基本的な書き方を説明してから書かせるほうが良いと思う。 ・進路面談は、各生徒の実情に応じて丁寧に行うのが良いと思います。また、成績については、本当の力が身につけていない生徒も多かったので、低学年から実力をつけることを意識した指導をする必要があったかと思う。</p> |

| | | | |
|----------------------|---|---|--|
| | <p>3 将来の目標となる看護師国家試験全員合格を目指すため、全ての学年で生徒自らが学ぶ意欲にあふれ、自立的に学習する姿勢を育てます。(衛生看護科)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲を育てるために外部講師や卒業生を招いてのキャリア教育を年3回以上実施する。 大桑名となった利点を生かし、専門教科だけでなく一般教科の先生方による小テストや確認テストを実施する。 各テストにおいて、その結果を踏まえた生徒個々のレベルに対応した個別指導を行う。 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習状況調査において、日々の勉強時間「30分以上」と70%以上の生徒が回答することを旨す。 | <p>「衛生看護科」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習状況調査から、学年により差はみられるが、ほとんど学習していない状況から少しずつ是正されてきている。 <p>「専攻科」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の学習時間について、90%以上の生徒が30分以上と答えている。 国家試験ガイダンスについては、国家試験の動向や勉強方法など参考になり、効果があったと約80%の生徒が答えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 各期間毎の成績不良者への面談、補充授業、保護者会等への実施が学習への動機付けとして効果的であった。小テストを含み日々の学習の必要性から学習習慣も少しずつ習慣化してきている。 学習状況調査の実施が形骸化しないように、この結果を分析、指導材料にする。 「接遇の講演」「卒業生と語る会」等キャリア教育としてとても効果的であった。今後も実施する予定である。 |
| <p>学 習 指</p> | <p>4 課外授業や習熟度別指導等、個々に応じたきめ細やかな指導で、生徒の学力向上を図ります。(進路指導部)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隔週土曜日午前の実施・月2回のペースで実施する。 平日課外授業を3年は4月から、2年は10月から実施する。 夏季休業中5週間の課外授業を設定する。 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導部が年度末に行う生徒アンケートの結果で生徒の達成感を指標とする。達成感80%を旨します。 | <ul style="list-style-type: none"> 土曜課外については、全体の50.6%が受講。受講生の中で役に立った生徒は87.4%。 平日課外については、全体の61.3%が受講。受講生の中で役に立った生徒は92.5%。 夏課外については、全体の76.4%が受講。受講生の中で役に立った生徒は84.4%。 | <ul style="list-style-type: none"> 受講率は、生徒がしっかり考えたうえで選択していれば問題はない。 「役に立った」「少し役に立った」という生徒がいずれも80.0%を超えている。 |
| <p>導</p> | <p>中長期的な重点目標の2 「21世紀を主体的に生きる資質を育てます」</p> <p>1 大学入試に関連する知識だけでなく、一社会人としてよりよく生きるために必要な興味・関心を高める。(総務部)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒昇降口のテレビ掲示板を活用し、社会に関する好奇心を引き出すようなクイズを年間20回発信する。 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記クイズの答と解説の印刷物を100枚(全生徒の約1割)作成し、自由に持っていけるようにし、なくなることを目標とする。 <p>2 生徒の多様な興味・関心を引き出し、知的好奇心を育み、個性を深め、生きる力を伸ばす読書環境を整えます。(図書部)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> | <ul style="list-style-type: none"> 2月中旬までで14回クイズを出題した。 解説の印刷物は、平均で9.6枚、最低は3枚、最高は23枚であった。生徒アンケートで「テレビ掲示板クイズに興味を持てたか」という質問をしたところ、持てた9.3%、少し持てた31.0%、という結果であった。 PTA講演会とタイアップした特集本コーナーも組み込みつつ、図書館だよ | <ul style="list-style-type: none"> 印刷物は人気がなかった。生徒アンケートでは多数とはいえませんが興味を持っている生徒もいるようだ。印刷物の数がテーマにより差があることがわかった。また、設置場所や、出題を総務の少数のメンバーで行ったため、出題が間に合わなかったこともあった。これらの問題点を改善して、より生徒の興味関心を高める取り組みとしたい。 生徒に身近な時事問題とも関連させながら特集を施行し、継続した。落ち着いて生徒一人ひと |

| | | | |
|-------------|--|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館便りの発行回数・特集本紹介コーナーの設置回数を1月1回程度実行します。 【達成状況の指標】 ・生徒1人あたりの蔵書貸し出し冊数を、5冊以上にします。 | <ul style="list-style-type: none"> り ・紹介コーナーともにほぼ達成した。 ・生徒1人あたり5.03冊(1月集計時点)となり、達成した。 | <ul style="list-style-type: none"> りが気づきを深め、興味と関心を定着することには一定の成果があると思われる。その興味と関心を広げることが今後の課題である。 |
| | <p>中長期的な重点目標の3</p> <p>「生徒の自己実現を図り、これからの社会を支える人材を育成します」</p> <p>1 生徒間の対話を深め、気づきが得られるような「総合的な学習の時間」を再考することで生徒の持つ思考力・発信力をより高め、協調性とリーダーシップを兼ね備えた状態を目指します。(教務部)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年まで行ってきた「総合的な学習の時間」を、各学年1つ以上、上記目的にあった取り組みに変えます。 【達成状況の指標】 ・「総合的な学習の時間」を振り返った生徒アンケートの中で、「この授業を通じて自身の成長が図れましたか」の項目で「はい」を選択する生徒が8割を超えることを目標とします。 | <ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生において「オープンキャンパスを利用した自主活動計画」を実施し、5～6名でグループを作り、各班でその成果を発表し合った。3年生においては、「新聞による現代社会学習」を実施し、新聞を持ち寄り時事問題について考えた。生徒アンケートでは、自身の成長が図られたと思う生徒の割合は、1年生で32.9%、2年生で31.1%、3年生で37.4%と、目標を大きく下回る結果となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの取り組みの発表の様子などを見ていると、各クラスとも生徒間の会話が進み、刺激を受けあう姿が見られたが、アンケート結果では残念ながらそこまで至っていないことが分かった。次年度はこれを踏まえ、オープンキャンパスでの自主活動に加え、修学旅行や学年での研修(遠足)でのグループ学習の取り組み、また講演会などでのファシリテーター研修の実施など、より対話を深められるような機会を増やしていきたいと思う。 |
| 生 活 指 | <p>中長期的な重点目標の1</p> <p>「教科活動を充実させ、学力向上を図ります」</p> <p>1 日ごろの生活習慣のリズムを整えることに重点をおき、自立した生活をおくる事ができるよう指導します。(生徒指導部)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成方法として年間200日以上、毎朝10分校門にて指導します。 【達成状況の指標】 ・全校遅刻延べ人数を昨年度より5%減少させ、無理なく学力向上を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ・12月22日時点で授業日数146日に対して、校門遅刻指導は128日実施できた。延べ遅刻者数は1162人で昨年度は742人であった。50%以上の増加である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・始業時間が10分早くなったことにより、通学時間帯のバスが渋滞に遭い、バス遅延による遅刻がかなり増加した。また看護科の本校合併により生徒が増加した影響もあると思われ、単純に気の緩み・怠けのみで50%増とはいえない。生徒への啓発はもちろんであるが、来年のデータをみて分析する必要がある。本年度の数字の5%減をめざして指導していく。 |
| 導 | <p>中長期的な重点目標の3</p> <p>「生徒の自己実現を図り、これからの社会を支える人材を育成します」</p> <p>1 環境の時代である21世紀を主体的に生きる資質を育てるため日々の学習環境を自ら整える生徒を育てる(保健部)</p> <p>【取組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や保健便りでの生徒への啓蒙活動 【達成状況の指標】 ・アンケート調査を行い 日常的に自分のごみを自分自身で処理が出来た生徒8割を目指す | <ul style="list-style-type: none"> ・保健便り全校集会での啓蒙活動はそれぞれ2回行うことができた。その結果が反映されたかどうかは不明な点もあるが、アンケート結果ではごみの処理ができたと答えた生徒は81.6%と目標を達成できた。校内のごみもあまり目立たない状態である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒が自分のごみ適切に処理できているため、これを桑名高校の誇れるところとして生徒の意識に定着させ、伝統になるようにすることが今後の課題である。 |
| 進 路 指 | <p>中長期的な重点目標の2</p> <p>「21世紀を主体的に生きる資質を育てます」</p> <p>1 生徒が主体的に学習する姿勢をはぐくむ環境作りを促進します。(進路指導部)</p> <p>【取組状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の有効活用のため、長期休業期間を除く毎土曜日に学校を開放して、自学自習できる環 | <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒のうち51.0%の利用があった。 ・延べ人数としては、1859人の利用が | <ul style="list-style-type: none"> ・自主勉強の確立を助けるものであり、参加者の達成感を指標にするべきであった。 |

| | | | |
|--------|--|---|--|
| 導 | <p>境を生徒に提供すると共に、できるだけ指導者がアドバイスできる体制を作ります。</p> <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜開放参加者 80 % を目指します。 | <p>あった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 31 回実施し、114 名の先生が監督をした。(1 月末まで) | |
| 人権学習 | <p>中長期的な重点目標の 3</p> <p>「21 世紀を主体的に生きる資質を育てます」</p> <p>1 生徒の自主的な活動を中心に据えた「人権 LHR」を実施することで、生徒が様々な場面で主体的に行動し、また、仲間とのつながりの重要性に気づき、リーダーシップと協調性を兼ね備えた状態を目指します。(人権推進)</p> <p>【取り組みの指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の自主的な人権学習活動として「桑名つながり隊」を組織し、毎月 1 回以上会合を開き、自主的な「人権 LHR」の運営に結びつけます。 <p>【達成状況の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「人権 LHR」運営を振り返る生徒アンケートの中で、「桑名つながり隊の活動を通じて自身の成長が図られましたか」の項目で「はい」を選択する生徒が 8 割を超えることを目標とします。 | <p>あった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「桑名つながり隊」を立ち上げ、年間で 15 回の会合を持った。 ・ 「桑名つながり隊」は少人数であったため、「人権 LHR」の運営に関わるまでには至らなかった。 ・ 「桑名つながり隊」は少人数であったため、人権 LHR 終了後に全生徒対象にアンケートを実施した。その結果、「人権について考えることができたか」という問いに対して、1 年生は 82.4 %・2 年生は 73.2 % の生徒が「できた、または少しできた」と答えているので、概ね目標は達成できた。 | <p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「桑名つながり隊」として 2 年生の修学旅行に際して、アイヌ民族の文化や差別の歴史について調べ、啓蒙ポスターを作ったり、全校生徒と保護者に呼びかけて文化祭で、東日本大震災復興支援バザーを行ったりして、校内において、その存在を周知させることができた。 ・ 生徒が主体的に取り組む人権 LHR の実施については、生徒主導という形ではできなかったが、教員をファシリテーターに据えることで、生徒が小グループの中で自分の思いを語るという形の人権 LHR を実施できた。また、担任以外の教員も全員、LHR の実施にかかわり、全校を挙げての統一人権 LHR として実施できた。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒同士の語り合いの内容を深められるよう手だてを考えなければならない。 |
| 組織力の向上 | <p>中長期的な重点目標の 4</p> <p>「社会の変化に対応した教育活動を進んで行います」</p> <p>1 将来を見据えた学校事務の流れへ改善(アイデア実現)取り組みを推し進めます。(事務)</p> <p>【取組状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さわやか対応・対話に向け、すべての事務室内情報をメンバー共有化するとともに個人情報取り扱いの適正化を高めます。 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事後アンケートにより「改善満足度」評価 70 % 以上を目指します。 <p>2 職員間のコミュニケーションをより活発にすることで、目指す学校像実現に向けたアイデアを出し合い、社会の変化に対応した教育活動を展開していく。(AKP 活動)</p> <p>【取り組み状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AKP (経営品質) 研修会による職員の会話促進の場の設定や定例の AKP (経営品質) 委員会でコミュニケーション活性化にむけた方法の検討を行う。 <p>【達成状況の指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員満足度調査内「職員間のコミュニケーションは図られていますか」の質問項目において、8 割の職員が満足している状態を目指す。 | <p>あった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務・校務職員へ 2 回アンケートを実施。日間行事・来校者・工事施工等予定及び教育活動情報を毎朝共有したことにより各職員間の連携が図られた。 ・ 2 回のアンケート結果から数値評価は得られなかったが、年度当初に比べ取り組み意識は改善したものと判断される。 ・ 夏の AKP 研修会に 46 名が参加し、事後アンケートでは参加者全員が「意見が多く出た」と回答した。また、AKP 委員会を年間 12 回開催した。 ・ 職員満足度調査において、「職員間の対話」の満足度が 2.1→2.5 (平均値 2.5) と昨年度より上昇した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務室業務は常に連携対応が求められる一連の業務のため、情報共有は欠かせない取り組みである。しかし、現状では全・定週替わり勤務等情報共有しづらい環境となっている。一層、全担当による情報共有を進める必要がある。 ・ 個人による接遇対応により、向上しつつある。来年度は施設環境を改善することにより一層向上させていきたい。 ・ AKP 研修会でも、職員間のコミュニケーションを重要視する意見が多く出され、実際に校内各所で対話をする様子が見られるようになってきた。しかし長期的な視点で改革のアイデアを出し合う機会は少ない。また本校・分校の統合による新たな取組もある中、従来からの取組に対する効果の検証が十分にはできていない。 ・ 今後、オフサイトミーティングを持つなどして職員間の対話をさらに活発化し、改革につなげていく必要がある。 |

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況

| | |
|--------|---|
| 強 み | <ul style="list-style-type: none">・ 課外授業や習熟度別指導など、きめ細やかな学習指導で生徒の学力を高めている。・ 学年通信・進路講演会・個別保護者会など保護者のニーズに合った情報を提供する取組を行っている |
| 弱 み | <ul style="list-style-type: none">・ 学校内での仕事の精選の取組が行われているが、教職員一人一人の多忙感の解消にはつながっていない。・ 長期的な視点で改革のアイデアを出し合う機会が少ない。 |

(3) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題

| | |
|-------|---|
| 関係者評価 | <ul style="list-style-type: none">・ 評価結果が数値化されている部分は良いが、そうでない部分も多い。目標設定段階から評価が容易な指標を掲げるべき。もっと実質的に数値で評価できる形態の導入を。境界が・ 学校が(またはその先生が)全てを背負い、生徒に細かな指導をして行くには限り・ ある。昔生徒だった当時、わからないことを質問するに当たって先生に聞くより周・ の友人に聞いた方が手取り早かった。そうした環境作りが出来ないものか。防・ ボランテニア活動(またはその精神)などを育成する教育が不足しているのでは。防・ 災の考えの中にも生かせると考えるが。 |
|-------|---|

(4) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 教職員の多忙感を解消し、長期的な展望・アイデアを生み出すミーティングを持つ。(AKP研修会など)・ 教職員の親睦を図る催しを持つなどして、互いに学びあい、助け合って仕事をする雰囲気づくりをする。(ヨガ教室・職員クラブ等) |
|--|---|